

# 中学生はどのように質問で 引き出しあっているか？

～单元「わたしの素 <sup>もと</sup> トークショー」（中3）の授業を通して～

## レポートの構成

### 1 問題の所在

### 2 「引き出す質問」の授業の開発と実践

#### (1)授業開発の視点

- ①「引き出す質問」を学ぶ「トークショー」
- ②語りたいという思いを引き出す題材を選ぶ
- ③「引き出す質問」を支援する

#### (2)授業の展開

- ①授業の概要
- ②授業の展開

### 3 「引き出す質問」の授業の考察

#### (1)「トークショー」から学習者は何を学んだか

- ①ゲスト（話し手）としてどのように体験したか
- ②聞き手として「質問」をどう考えたか

#### (2)「トークショー」の会話分析から

考察1 「トークショー」の効果～「今日のゲストは……さんです！」（拍手）～

- ①「Nさんの素 トークショー」から

考察2 矢継ぎ早い質問 ～「聞きすぎだろ！」～

考察3 水を差す質問 ～「日本人が主人公なんですか？」～

考察4 ゆだねる質問 ～「わかんない……適當すぎるんだけど。質問が。」（笑）～

- ②「Yさんの素 トークショー」から

考察5 エピソードに光を当てる質問 ～「思い出したくない過去なんですが……」～

考察6 違いから深める質問 ～「心境の違いってありますか？」～

- ③「Tさんの素 トークショー」から

考察7 トークを「振る」言葉 ～「いいよ、語りたいだけどうぞ！」～

考察8 共感する言葉 ～「Honey Works（ハニワ）いいよねー。」～

考察9 肯定的なフィードバック ～「ふふ、うれしそう」～

考察10 「会話の輪」と「蚊帳の外」 ～「Uくんは読んだほうがいいな。」～

### 4 実践から見えてきたこと

- (1)「引き出す質問」の授業から見えてきたこと
- (2)「引き出す質問」の授業のリ・デザインに向けて

### 5 参考文献

渡辺 光輝

お茶の水女子大学附属中学校

# 1 問題の所在

社会生活を送るなかで「聞くこと」<sup>1</sup> 「質問をすること」はコミュニケーションの根幹をなす言語活動として極めて重要な役割を果たしている。学習者である中学生の日常生活の中でも、授業や課外活動などで質問をする機会が多い。多くの中学生にとって「質問」とは「分からぬことを聞く」「知りたいことを知っている人に聞く」「疑問点を明らかにするために聞く」ことなどを意味している。

近年、カウンセリングやコーチング、ファシリテーションなどで「質問」の役割が拡大しつつある。そこでの「質問」とは「自分（カウンセラー）が知りたいことを聞く」ではなく「相手（クライアント）の問題意識やふり返りを喚起し、課題解決を促すために質問する」ところにその特徴がある。カウンセリングに限らず、コミュニティーの中で他者と協働で生活する実社会において「質問」は、「知りたいことを聞く」ということに限らない、広がりのある概念を含むものと考えて良いだろう。日常生活、社会においては自分が知りたいことを「質問」するだけでなく、相手の気持ちや考えを引き出すときにも「質問」は用いられている。相手の意向をうかがったり、相手との相互関係の中で、共有する新たな文脈を創り出すことも「質問」の大きな働きの一つである。これらの「質問」は、自分が知りたいことを聞く、分からぬことを質問するというタイプの「質問」ではない。そうではなくて、相手が話したいこと、相手が解決したいこと、相手が心中でもやもやしている部分をクリアにするために行われる「引き出す質問」である。本研究では、そのような後者の「質問」を「引き出す質問」として定義したい。

学習指導要領において「聞くこと」の指導事項が取り上げられているが、そこでの「質問」は聞き手が知りたいことを聞くという「質問」にとどまっている。相手を支え、主体的な課題解決を促したり、協働で意味や文脈を生み出すために行われる「引き出す質問」は学校教育、とりわけ国語教育において明瞭に位置付けられ、指導されていないという現状がある。

そこで、本研究では中学校国語科で取り上げることができる「引き出す質問」の授業を開発していく。授業で中学生がどのように「引き出す質問」のイメージを形成していくのか、それが中学生の実際のコミュニケーションの中でどのように活用されていくのか、学習者の姿を通して明らかにしていきたい。

## 2 「引き出す質問」の授業の開発

### （1）授業開発の視点

#### ①「引き出す質問」を学ぶ「トークショー」

中学生にとってイメージしづらい「引き出す質問」を学ぶために「トークショー」<sup>2</sup>という活動を取り入れることにした。「トークショー」では、ゲストの語りを聞き手が質問などによって引き出していく。中学生にとってもTVなどでお馴染みのこの活動に取り組んでいくことで、どのような投げかけや質問のときにゲストのトークを引き出すことができるか体験的に学ぶことができると考えた。

#### ②語りたいという思いを引き出す題材を選ぶ

「トークショー」ではゲストが自分の体験や思いをいきいきと語っていくことがゴールとなる。そのため、何を話題として取り上げるかが重要なポイントとなる。

本単元ではそれを「今までで思い出に残っている本」とし、本との出会いをかたってもらうトークショーとした。思い出の本であれば、同世代の聞き手にとっても共有点が多いし、なおかつ、本の内容や、ホントの出会いにまつわるエピソードなど、語る話題が豊富に広がっていくと考えたからである。

授業では「わたしの素」と題し、いまの自分を形作った「素」といえるような本を三冊組み合わせて紹介するというトークショーのテーマにした。

<sup>1</sup> ここでは「聞くこと」に様々な意味（聞く、聴く、訊くなど）が含まれていると捉え、あえてひらがなの表記としている。ただし「聞き手」は利き手と混同することを避けるため「聞き手」と表記している。

<sup>2</sup> 「対談番組」の先行実践として宗我部の「語り合おう—将来の夢」がある。花田（2013）所収。

### ③「引き出す質問」の学習を支援する

「トークショー」では、ゲストの語りを引き出す聞き手の質問が極めて重要な役割を果たす。しかも、その質問は聞き手がリードしつつも、ゲストの語りに合わせて即興的に合わせて促す部分も必要となる。

そのため、流れを捉えて聞き手が即興的に質問できるように、質問の様々なパターンを広げるための支援、即興的な質問を意識付けさせるための学習の仕掛けを行った。具体的には「質問カード」（後述）の提示と、一人二問の連続的な質問という制約、そして質問の効果を振り返る活動である。事前にグループの聞き手でお互いの質問内容について相談しあったり（作戦会議）、トークショーが終わったあとに質問のやりとりについてゲストからフィードバックする機会を設定したりすることで、質問の戦略について振り返ることができるよう配慮した。

## （2）授業の展開

### ①授業の概要

#### 単元名 「わたしの素（もと）～「本との出会い」のこれまでとこれから～」

今までの十四、五年間の人生で出会った本の中から、印象に残っている一冊、大好きな作品、夢中になって読んだ本などを振り返っていく。そのなかで「自分の素」と言えるような三冊を組み合わせて、それを「トークショー」のスタイルで紹介しあう。これらを通してこれまでの読書経験を共有していく。なお、このトークショーの交流のあとで、これから読書生活をどのようにしていくか見通しを持っていくことも狙いとする。

#### 対象生徒

お茶の水女子大学附属中学校 3年3クラス（30人×3クラス、計90名）

#### 実施時期

2015年7月7日～14日（4時間展開）

#### 授業のねらい

- 引き出す質問の意義を理解し、引き出す質問を意識的に工夫していく。（話すこと・聞くこと）
- 自分の読書生活を振り返り、交流することを通して今後の読書生活の指針を得る。（読むこと）

### ②授業の展開

#### 1時間目 本との出会いを振り返る

##### ①単元の概要を確認する。

なお、一週間前に「国語教室通信」（資料参考）にて授業の予告をし、紹介する本などの準備を促した。

##### ②「トークショー」のデモンストレーションをみて、学習のイメージをつかむ。

授業者とゲストとでトークショーを実演。

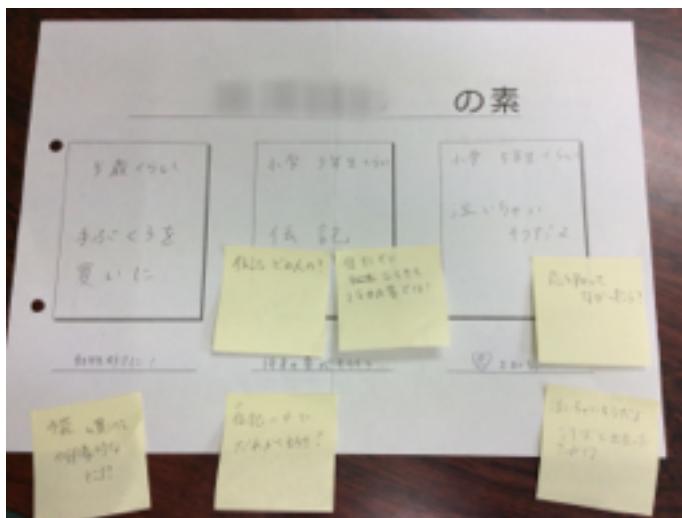
ゲストは勤務校の学校司書、奥山文子さん、1クラスは授業見学で来校した東京学芸大の岩瀬直樹さんにお願いした。（右写真）



### ③「本との出会い年表」を書く

④③の年表の中から、「わたしの素」を三冊に絞り、ワークシート（フリップ）に書く。（下写真）

このフリップや本の実物を提示しながら次の時間のトークショーが進んでいく。



(写真) 「〇〇の素」の三冊とコメント

5歳

『手ぶくろを買いに』

動物好きに！

小学3年生くらい

伝記

将来の夢がそろそろ……

小学5年生くらい

『泣いちゃいそうだよ』

恋を知る。

このように、フリップには、三冊の本の題名、その下に簡単なコメントが添えられている。聞き手は、本の内容や、添えられたコメントという限られた情報から質問の切り口を考えていくことになる。（写真の付箋はトークショーで交わされた質問。トークショーを終えた後に貼ったもの）

## 2・3時間目 「わたしの素」トークショー

五人グループを作り、一人ゲストを決めて、そのゲストの読書体験を質問して引き出し合うトークショーを行っていく。トークショーは次のような流れで行つていった。

### ①トークショーの打ち合わせ（3~4分程度）

ゲストはグループから離れて控えスペースに移動し、待機する。

その間、聞き手四人は、ゲストのフリップから質問内容を考えたり、質問を調整をしたりする。質問が重複していないか、質問の順序は適切かなどを考えていく作戦会議を行う。この打ち合わせの段階で、すでに「引き出す質問」が自覚化され、メタ認知が高まっていくことを狙いとしている。

### ②「本との出会い」トークショー（7分くらい）

ゲストは控えスペースからテーブルへ移動。メンバーは拍手で出迎えてトークショーが開始する。

司会者の出だしの言葉からトークショーはスタートする。（「今日のゲストは……さんです！」）

「引き出す質問」の学習を意識させるために、次のようなルールを設定した。

#### トークショーの質問のルール

- ・4人の質問者は全員が質問する。（質問の権利・義務を意識させるためにトーキングステッキ（ぬいぐるみを使用）をバトンにして受け渡していくようにさせた。）
- ・一回につき一人二問、連続して質問する。
- ・一問目は①の打ち合わせで事前に考えていた質問。二問目はアドリブでその場で考える質問。

### ※質問を支援する「質問カード」

この「質問カード」は、トークショーで交わされそうな質問のパターンを授業者が予測し、カードにしたものである。

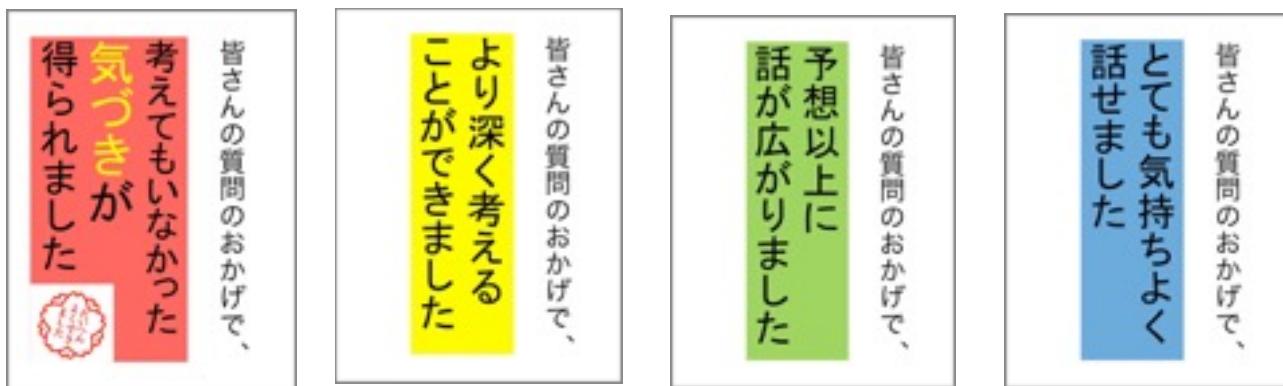
質問が思い浮かばなくなったら、このカードを見ながら即興的に質問を思い浮かべることになる。（このカードの言葉を必ず言うというものではない。ヒントカードの位置づけである）

トークショーの学習で重要なのは、二問目のアドリブ質問である。二問目の、即興的に考える質問をひねり出すためには、ゲストの話を真剣に聞き取って、文脈を押さえ、どのタイミングで、どのような問い合わせすればいいか考えていくことになる。しかも、前の質問者や後に続く質問者の質問内容も意識して、上手くつないでいかなければならない。そのため、この質問はかなり難易度の高いものとなっていた。



### ※ゲストのフィードバックを支援する「フィードバックカード」

トークショーが終わったら、ゲストから、このトークショーをフィードバックしてもらう。フィードバックで自由に感想を話してもらってもよいが、その場合「楽しかったです」というような浅いコメントで終わってしまうことを危惧した。そこで、以下のパターンをカードで示した。（下写真 フィードバックカード）



なお、この四つのパターンは、ゲストにとってフィードバックを引き出すという意味だけでなく、質問者にとっても、トークショーの目指すべきゴールを共有するためのものとして機能していくことを意図した。授業者にとってこのトークショーの最高の達成は「考えてもいなかった気づきを得る」ようなものとなることである。

ゲストはトークショーが終わると、このカードを示しながらトークショーのフィードバックをコメントしていくこととなる。よかつた質問は？ よかつたところは？ 質問を受けての感想は？など。

### 事後課題 「わたしの素」ポスター作成

なお、事後に「わたしの素」の内容をポスターにして掲示する予定である。取り上げた思い出の本三冊、「本との出会い」年表などを含む内容で作成する。廊下に掲示し、他のクラス、学年とも共有していく予定である。これを夏休みの宿題とした。（本レポートにはその内容について取り上げることはできなかつた）

## 2 「引き出す質問」の授業の考察

本節では、授業に実際に取り組んで得られた知見を整理していきたい。まずは学習者がこの授業を体験してどのような気づきが得られたか考察するために、授業後の振り返りの記述を分析する。次に、抽出グループでのトークショーの様子を会話分析し、質問によってゲストの語りが引き出されていく様子を考察する。

### (1) 「わたしの素 トークショー」から学習者は何を学んだか？

#### 分析の方法

ここでは学習者のふり返りの記述から「引き出す質問」についての知見を見いだしていきたい。授業後に自由記述で記入したふり返りの文章から、内容ごとに切片化し、それらのなかからキーワードを抽出してカテゴリーを生成し、考察した。

#### ①ゲスト（話し手）としてどのように体験したか？

まず、ゲスト（話し手）という立場から、この「トークショー」という活動を、どのように受け止め、どのように質問について考えていったのかを考察していく。

##### ※「話し手としての気づき」コメントから（一部）

- ・司会の人はもちろん、グループのメンバーが明るく盛り上げてくれたり、「それ知っています！」「〇〇なんですね。いいですね！」と相づちをたくさんうって、質問をしてくれたことで話が広がったと思うし、話していてとても楽しかった！！
- ・自分であらすじを話すよりも話しやすかったです。質問があるからこそ、それに応えようと、深く深く話せたと思います。
- ・予想もしなかったようなことも質問してくれて、本の内容をもういちど考えなおすきっかけになった。
- ・本の内容だけでなく好きなシーンや自分への影響など深いところまで聞かれて、とても話していく気持ちが良かったです。
- ・駄目な質問は相手の答えが一言で終わってしまって話が広がらないものです。

これらの「話し手としての気づき」の記述から【情意的な満足感】と【良かった質問】【悪い質問】の3つのカテゴリーを生成し、それぞれについてキーワードを抽出した。（以下表）

##### 「話し手としての気づき」キーワード

【情意的な満足感】	【良かった質問】	【悪い質問】
楽しい・気持ちがいい	こたえやすい内容を聞く	盛り上がらない質問
聞き手が導いた、盛り上げた	話したいことを聞く	本の内容だけ聞く質問
自分の内面が出せた	好きな……などを聞く	一問一答になる質問
気づきがあった	予想外な質問もよい	YES,NOでこたえられる質問

まず、多かったコメントは「楽しかった」「気持ちよかったです」という情意的な満足感である。聞き手とのキャッチボールのやりとりにより、スムーズにトークを進めることができた、聞き手の相づちやフォローなどにより、トークを盛り上げてくれ、話しやすい環境を整えてくれたことに感謝する記述が多い。

気持ちよく話せた要因として多くの学習者が取り上げていたのは「自分が話したい」「話しやすい」話題を質問者が取り上げてくれたことによる。好きなキャラクターやシーン、お気に入りの場面についての質問など、本人がこだわりを持っている点について質問されると話が引き出されると感じている。一方、即興的に繰り出される予想外の質問であっても、それによって無意識に感じていたことや自分の内面が引き出されたと記述する学習者もいた。また、自分が想定していない質問がされることによって、本について未知の聞き手が、どんなことに関心を持っているか気付かされたという学習者もいた。

トークショーの中でやりづらかったと感じているのは、話し合いが盛り上がらないという状態である。ゲストは質問によって話が広がらない、深まらないことを危惧している。YES、NOでこたえられる質問、本の内容などの表層的な質問は、一問一答のやりとりとなって話しづらかったと述べている学習者もいた。

これらの振り返りから、「トークショー」は、話し手にとって質問が話す内容のヒント、足場掛けとなつて機能し、また、自分の話を多角的に整理したり、想定外の内容を引き出すものとして機能していたことがうかがえる。そしてその「話しやすさ」の基盤には、聞き手の共感的な反応や、話し手への期待感の存在がある。これらは、一方的に話し手が紹介をするだけの独話的トークと、対話的トークショーとの違いとして授業者が感じとっていた印象や会話分析の知見を、話し手の視点から支持するものであるといえよう。

## ②聞き手として「質問」をどう考えたか？

続いて「聞き手」として質問をどうとらえ、何を気づいたのかを考えていきたい。「引き出す質問」をするために、どのような意識で学習者は臨んでいったか、また、どのような質問が有効であったか、振り返りの記述の中でとくに質問の方略に関する記述を抽出した。これを4つのカテゴリー（つかむ・焦点化・深化する・エピソードを引き出す・流れを作る）に整理して考察する。

### ※聞き手の振り返りコメントから（一部）

- 相手が言おうとしていたことや、相手により深く考えさせるような質問ができたときは良い質問ができたと思う。
- 話し手(今回でいうゲストの存在)が、本について話したいだろなということ、あるいは、もっと深く追求したいことを推測したり考えたりしてから質問する（的を射るもの）というのが質問の難しさだと思う。
- 本の内容と、発表者がその本に持っている思いを繋げて発表してもらえるようにうまく質問をするのが大変だった。
- 一つ目の質問に答えてもらうと、何らかのキーワード(単語)が答える人から出てきます。そのキーワードをうまく拾って、次の質問につなげていくというのがうまくできるといいです。
- 質問には波があったほうがいいと思った。というのは最初から良い質問を投げかけてしまうと話し手が話しづらかったりした。だから全てが良い質問なのではなく、少しずつ息抜きのような質問をしたりと質問に緩急をつける最後らへんに大切な入れるといいなと思った。

### 「聞き手として意識した質問の方略」キーワード

【つかむ】	【焦点化・深化する】	【エピソードを引き出す】	【流れを作る】
相手の話に寄り添う	キーワードを拾う	きっかけをきく	柔軟に聞く
その人の特性を把握	最も……は？	思い出を引き出す	途切れさせない
本の内容を理解	なぜ・動機を聞く	影響や変容を聞く	息抜き・緩急をつける
「好き」を聞く	考えに迫る	……さんにとって	問のタイミングを図る
話したいことをつかむ	広げる→深めるへ	その人らしさを引き出す	浅い質問から深い質問へ

### 【つかむ】方略

まず学習者たちが質問する際に意識していたのは、ゲストや本の内容を把握するという方略である。ゲストがどんな話題を持っているのか、何を話したい、伝えたいと思っているのかを質問によって探っていく。具体的には、「好きな……は何ですか？」などのように、相手から関心や好みを引き出したり、相手の人柄などの特性と本とをつなげられるように質問をし、それによって話題をとらえ、発展させようとしていることがわかった。

このような【つかむ】方略によって、聞き手は、相手が話しやすいこと、話したいことを的確につかもうと質問していることが振り返りの記述から明らかになった。

### 【焦点化・深化する】方略

トークショーでは、7分という限られた時間で、三冊の本の語りをうまく引き出さなければならない。しかも表面的な内容だけでなく、ゲストからのより深い内容の話も引き出したい。そのためには、ゲストの語りを質問によってより焦点化させることが必要となる。

具体的には、ゲストの語りから、話をより深める「キーワード」となるような言葉を瞬時につかみ、それをきっかけにさらに深い語りにつながるような質問を投げかけるように学習者は意識をしている。具体的な焦点化、深化する手立てとしては、「最も……は？」という問い合わせによって、多くの情報の中で特にゲストが重視していること、こだわっている内容などにクローズアップする問い合わせを意識している。また、本の内容などの、表面的な情報だけでなく、ゲストの思いや考えに焦点を当てる質問をすることが重要性に言及している学習者も多かった。

### 【エピソードを引き出す】方略

学習者たちは、ゲストが単に本の紹介をするだけでなく、どんなきっかけで出会ったのか、なぜ魅了されたのか、自分にどんな影響を与えたのかなどを引き出すことを重視していた。

エピソードを引き出すために「良い質問」として頻出したキーワードは「きっかけ」、「思い出」「ゲストにとって」というキーワードだ。きっかけや思い出などの体験談を引き出すことによって、他ならぬゲストにとっての、固有の本との関わり、影響、体験などの物語が語られることになる。そのようにしてエピソードをより多く引き出すことのできる質問が、多くの学習者にとって「良い質問」だと認識されている。

### 【流れを作る】方略

このトークショーでは、ゲストが「主人公」となって語っていくが、実際にトークをリードするのは質問者たちである。ゲストに主導権があるようにみえて、実が、質問者たちが場を作っているのである。そのため、質疑応答やインタビュー型の学習活動とは明らかに違った質問者の意識が見られた。それは、トークショーという場に対する、質問者の責任感の強さである。

例えば、質問者たちが恐れていたのは、「トークが途切れる」「場が冷めてしまう」というところであった。ゲストの語りを引き出すのは質問者の責任だと認識していることがこの記述からわかる。のために、質問者が質問によって「流れを作る」ことをさまざまに工夫していることが伺えた。具体的には、どのようなタイミングで質問を入れればいいか考えながらゲストの話をきくこと、ゲストのトークの文脈にそって柔軟に、即興的にきくこと、ゲストに考えさせるような重たい質問をいきなり投げかけるのではなく、軽い質問を時折織り交ぜて緩急をつけた質問をすること、そして浅い質問から深い質問へと徐々に質問のレベルを変えていくことなどである。

なお、このように「流れを作る」ことに気づいた学習者にとっては、授業者が授業のフレームとして意図した手立てがデメリットと感じていることも分かった。一人二回質問したら他の質問者と交代する、質問内容を予め準備しておくなどの学習の手立てが、柔軟にトークショーを作っていくことを難しくしていたことを学習者は言及している。

以上のように、トークショー型の対話学習では、質問のレベルを意識したり、複数の質問のつながりを工夫したり、質問者とゲストとの相互作用によって作られるトークショーのやりとりをメタ認知したりすることができる可能性を示唆している。

## (2) トークショーの会話分析から

### 分析の方法

3つの「トークショー」事例を取り上げ、そのなかでの特徴的なやりとりを抽出して考察をしていく。取り上げる事例は、筆者が特に質問のやりとりについて顕著な特徴があるととらえたものを選択した。

「トークショー」という場において、「ゲスト」である学習者の語りがどのように生まれていったか、それを、グループのメンバーからのどのようなやりとりによって引き出されていったを考察していく。

### 考察1 「トークショー」の効果 ~「今日のゲストは……さんです！」（拍手）~

まずははじめに、この「トークショー」という活動の設定がどの程度効果的に機能したかについて考察していきたい。3つの事例に共通するのは、「ゲスト」として話し手を迎える親和的な関係性である。

実際、ほとんどのグループで、トークショーの冒頭に、「今日のゲストは……さんです！」（歓迎の拍手）というやりとりが行われていた。このような場の設定が、「ゲスト」の語りを引き出す「質問者」の立ち位置を鮮明にさせ、意識付けさせるものとして機能したと考えられる。

ただし、この「トークショー」を「インタビュー」とも捉えている学習者が存在している。（事例B-7）「トークショー」と「インタビュー」とは、本質的には異なるはずである。しかし両者の違いについて、どのように異なるのかイメージを持つことが不十分であった。また「トークショー」というフレームであっても、この学習ではトークを聞く「観客」は設定されていなかった。その点で、質問者以外の「観客」を意識した質問のやりとりができなかつたところが反省点である。

### 事例A 「Nさんの素 トークショー」から

事例Aは、質問のやりとりが効果的にできていなかつた事例として取り上げたものである。

### 考察2 矢継ぎ早の質問 ~「聞きすぎだろ！」～

4	S	はい。えーと、幼稚園の年長の時に読んだ「エルマーのぼうけん」っていうのは、どのくらいの長さのお話なんですか？
5	ゲスト	なんかこんぐらいの・・・（指で本の厚さを示す）
6	S	文字サイズはどれくらいですか？
7	ゲスト	え、文字サイズはなんかけっこう小さめです・・・
8	S	絵はどれくらいありますか？
9	A	<b>【聞きすぎだろ！】</b> ※筆者注 【の記号は、上の発話に重なって発話されていることを示す。

この会話では、質問者が畳み掛けるように質問をゲストに投げかけている。

「どれくらいの長さの話ですか？」 「文字サイズは？」 「絵はどれくらい？」など。このように、質問を小刻みに畳み掛けられるとゲストはじっくりと話すことができない。また「長さ」「文字サイズ」といったような客観的な事実や外見的な特徴に着目した質問は、どうしても一問一答の形になってしまい、ゲストの語りを引き出すことができていなかつた。そのように矢継ぎ早に繰り出される質問に対して、聞いていたAくんが「聞きすぎだろ！」 「お前は何回質問するんだ！」とツッコミを入れているほどである。（一人二回は質問をしたら他の質問者と交代するというルールが裏目に出ているともいえる）

### 考察3 水を差す質問 ~「日本人が主人公なんですか？」～

以下の会話は、深まりかけた語りが、質問によって十分に引き出されなかつた例として取り上げる。

23	D	はい、では新世界とはどんな世界ですか？
24	ゲスト	えっと、新世界っていうか、新世界よりっていう、なんだっけ、誰かさんが作曲した曲
25		あー
26	ゲスト	誰でしょう、・・・分かるでしょ、それから題名をとってあって、で、まあ、あの世界がああ、この今私たちがいる世界観とは違って、超能力が使える日本の話を描いた話・・・
27	D	<b>日本人が主人公なんですか？</b>
28	ゲスト	うん、そうです。
29		ほー。
30	I	「新世界より」に出会ったきっかけってなんですか？
31	ゲスト	友達に紹介してもらってこれ面白いから読んでみなよって読んだらどはまりしました。
32	I	(3秒の間) 「社会の謎に迫る」って謎って何ですか？

「新世界とはどんな世界ですか？」という質問をきっかけに、ゲストが新世界の世界観に言及し始める。ところが、ここで質問者が「日本人」という言葉に着目し「日本人が主人公なんですか？」という質問をすることで世界観について十分に深められず、次の話題に移ってしまっている。（どんな世界観なのか、なぜその世界観に惹かれたのかなどを質問すれば、深めることができたかもしない。）

続いてもう一人の質問者が「出会ったきっかけ」について質問する。ここでもゲストが友達とのエピソードを語りだしたが、そこは質問者は触れずに次の質問へと移ってしまっている、十分にゲストの語りを拾つて膨らませることができていない。

ただ、このような質問のやりとりが生まれたのは「一人二問ずつ、一問目は事前に考える」という授業の制約があったことは否めない。このようなルールを設けることで、一人ひとりが責任をもって質問をすることが可能になったが、反面、ゲストの語りに沿って柔軟に応じることが難しくなり「水を差す質問」とさせてしまった感がある。この事例からわかるように、表出されるゲストの語りのどこに焦点を当てれば深まっていくかという点に着目させることが「引き出す質問」においては重要であることが推察される。

#### 考察4 ゆだねる質問 ～「わかんない・・・・適當すぎるんだけど。質問が。」（笑）～

次の断片は興味深い事実を明らかにしている。それは、Aの質問を「適當」と感じながらも、その質問から、自力で語りを引き出しているという点である。まずは会話のやりとりを見てみよう。

110	S	「西の魔女」をどう考えますか？
111	ゲスト	<b>わかんない・・・・適當すぎるんだけど。質問が。（笑） どう考えますか？・・・</b>
112	A	自分の解釈的に・・・
113	ゲスト	多分おばあちゃんは、なんか、死んじゃうんですけど、死んじゃう前に主人公とあの、死んだら何か教えてあげるよみたいな約束をして、で、実際教えてくれるんですよ、なんか
114	A	死んだおばあちゃんが？
115	ゲスト	はい、あの、魔女の（不明）に字が書いてあって、主人公がおばあちゃん死んじゃったよ、うえーんってっていっているときに、文字が書いてあって、ふと見ると、で「おばあちゃんの魂脱出大成功」って書いてあるんですよ。

筆者が注目しているのは二点ある。一つは話し手が質問について「適當だ（いいかげんだ）」と判断するのはどのようなところにあるのかという点だ。もう一つはなぜ「適當な」質問でもこたえられたかという点だ。一つ目の疑問について、話し手が「適當だ」と判断する根拠は、おそらく、質問者がそれまでの会話の流れを一切念頭に置かずに、思いつきで投げやりな質問をしているところからなのだろう。もう一つは、「どう考えますか？」という、ほとんど質問としては意味を成さない問い合わせをしているという点からだ。「どう考えますか？」「自分の解釈的に」という投げかけからは、聞き手が何を知りたいのか把握することはできない。しかし、筆者が着目する二点目の、そのような「適當」な質問であるにもかかわらず、なぜゲストは「多分……」と語り出すことができたのかという点については一考の価値があるのではないか。

質問者からの、焦点の定まらない曖昧な質問であっても、ゲストが語りたいこと、語りたい思いがあれば、自然と曖昧な質問を自分の文脈に引きつけて「勝手に」語り出すことができる。いや、むしろ、語りたいことが胸の中にたくさんあれば、その場合は、何でもこたえとなりうるような曖昧な質問であるほうが、自分のペースに持ち込んで語りやすいということさえも言えるのではないだろうか。

考察1、2と比較し、考察3の質問は明らかにぼんやりしすぎている。練られた質問とは到底考えづらい。しかし、瑣末なことにとらわれた浅い質問をするくらいであれば、むしろ曖昧でぼんやりとした質問をし、相手に発言の主導権を委ねたほうが効果的な場合もあるようだ。相手に発言の方向性を任せるという、曖昧でぼんやりとした「ゆだねる質問」のほうが、ゲストの自由な語りを引き出す可能性があることを示唆しているのはとても興味深い事実である。

## 事例B、「Yさんの素　トークショー」から

事例Bのトークショーは、質問が非常にうまく絡み合い、ゲストの語りを十分に引き出すことができた事例とした取り上げた。まず次の会話を見てほしい。

### 考察5 エピソードに光を当てる質問～「思い出したくない過去なんですが……」～

9	N	この3つの本の中で、1番思い出のある本はなんですか？
10	ゲスト	思い出のある本ですか、「ようこそ我が家へ」ですかね
11	N	何ですか？
12	I	何ですか？
13	ゲスト	えっと、何か、ドラマ、ドラマやってたじゃないですか、で、私なんかこのドラマのおかげで、なんて言うんだろう「社会の怖さ」とかそういうのを知りはじめて、で、私ついこの間ストーカーに会ったんですけど
14	TIA	えー！
15	ゲスト	本当に、ストーカーに会ったときに、何かこの本で何か行っていた対処法とか、ちょっとやってみたら結構よかったんですよ
16	I	具体的にどんな対処法を・・・
17	ゲスト	え、具体的に・・・具体・・・ちょっと、まあ、思い出したくない過去なんすけど
18	I	わかりました。すいませんごめんなさい。
19	N	結構ひどいストーカーですか？
20	ゲスト	(ストーカーの体験談。省略)
21	TIA	あはは
22	ゲスト	(体験談は省略) それで、あーこの本のおかげでちょっと助かったなあみたいな感じのことを、つい一週間前に思い出しました。
23	N	おー、すばらしい！　(拍手) さすが、すばらしい！ 尊敬します。

まず、質問者から「一番思い出のある本は」という問い合わせがなされる。この質問から、ゲストが最も語りたい内容へと焦点化されていく。そこで、ゲストは「ついこの間ストーカーにあったんですよ」という事実を明らかにする。「えー！」と反応し、大いに驚く質問者たち。つい質問者は「具体的にどんな方法を…」「結構ひどいストーカーですか？」と突っ込んだ質問をしてしまう。ゲストは「思い出したくない」と一度は応じながらも、聞き手の期待に引きづられて、ストーカーに遭った体験を語りだす。

この一連の質問のやりとりから学べることが三つある。一つは、「ゲストが語りたいこと」に聞き手がフォーカスさせることの効果だ。聞き手は、自分自身が聞きたいことを聞くのではなく、ゲストが何を最も関心を寄せているのか、何を語りたいのかをつかむことが必要となる。そのためには「一番……なものは？」などといった、話し手が語りたいことをつかみ、焦点化する質問を投げかけることが有効である。

もう一つは、深まる話はエピソードとして語られる事が多いという点である。人は、掘んだ事実や、得た知識の上澄みだけを話すよりも、身を持って体験したことなどをエピソードとして語り出すときに最も生き生きとするようだ。話し手の体験や思い、エピソードを質問によって引き出すような促しをすることで、より深い語りへと導いていくことが可能となる。

さらに考えるべきことは、引き出されるエピソードは、ときとして語り手の触れたくない過去、語りたくない内容となる可能性もあるということだ。上記の事例が明らかにしているように、体験したエピソードは、必ずしも語り手にとって心地よいものであるとは限らない。しかし、聞き手や質問の力によって、そういう話し手が無意識に抱いていた記憶も引き出されてしまう可能性もある。聞き手は、ゲストが一番話したいことに注意を注ぎ、フォーカスを当てることが求められるが、その反面に、ゲストにとって語りたくないことや、思い出したくない過去にまで光が当たる可能性があることに十分配慮する必要がある。

## 考察6 違いから深める質問～「心境の違いってありますか？」～

このYさんとのやりとりで共通する特徴的な質問がある。それは「違い」に着目させる質問が非常に多いということだ。以下の4つの質を見て欲しい。

24	N	えとー「ようこそ我が家へ」っていうのはドラマでもやっていると思うんですけど、ドラマと原作って何か違いがありますか？
31	T	えーと、立派な大人、あ、ここに書いてあるんですけど、 <b>立派な大人と大人の裏の顔の違いってい</b> うのは、どういう……立派な大人っていうのはどういう人のことを言って、裏の、大人の裏の顔っていうのがどういうことをいうんですか？
41	A	「リトルプリンセス」って、なんかもうリトルがついているし、どっちもディズニーだし、結構似ていると思うんですけど、なんかその自体、 <b>それ自体の違いとかはあったんですか？</b>
43	A	リトルマーメードを読んでいたときと、そのリトルプリンセスを読んでいたときと <b>心境の違いってありますか？</b>

この四つの質問とも「違い」について質問をすることで、ゲストの考えを引き出そうとしていることがわかる。違いをきく質問は、具体的こたえやすい質問でありながら、ゲストの考えを上手く引き出すことができる質問となっている。それは、違いから比較の思考を促すことができるからだ。

例えば、質問者が「立派な大人」と「大人の裏の顔」の違いなどをきくことで、ゲストは知らず知らずのうちに両者を比較し、それについての評価や判断などの考えを引き出している。また「心境の違い」などのように、時間的な違いから、ゲストの心の成長を振り返るきっかけを与えている。

このように、「違い」に焦点を当てて、そこからゲストのこだわりや考えを引き出す質問は、Yさんの事例において非常に有効に機能している。

## 事例C 「Tさんの素 トークショー」から

最後に取り上げる事例Cは、筆者が観察した中で最も「トークショー」らしく、ゲストがのびのびとトークをしているものを選択した。ただし、このTさんのトークショーは、本来筆者が想定していた授業の狙いやルールとは逸脱している可能性がある。たとえば、一人質問は二回ずつといった制約、順番に質問をするという学習のルールを守っていない。また、必ずしもゲストの語りを「質問」によって引き出していないという事実がある。しかし、筆者の当初のねらいとは、ずれがあるにせよ、ゲストの語りを引き出す聞き手の関わりを考える際に、無視できない事実や多くのヒントが得られるのではと考え、あえて取り上げることとした。やや長いが、はじめに関連する会話をすべて取り上げる。

26	S	中学校に入って、HoneyWorks（ハニワ）はまっちゃった・・・
27	ゲスト	はい。はまりました。見事に。
28	S	歌も？
29	ゲスト	歌、歌からはまりました！
30	S	】歌から！
31	O	】歌から！
32	ゲスト	なんか、ダンス部でおすすめの曲みたいのを結構言い合ったりしているんですけど、そこでYさんがHoneyWorksいいよって言ってて、聞いたらやばいってなって、
33	O	Y！
34	ゲスト	それで本屋さんで見つけて、もう、衝動買いで買っちゃいました。
35	S	HoneyWorks（ハニワ）いいよねー。
36	F	】いいよねー
37	O	】うーん、あれはすごい。
38	ゲスト	】めっちゃはまりました。・・・
39	O	ふふふ。分からない人・・・(Uを見る)
40	ゲスト	恋愛ですよ。

41	S	】恋愛だよ。
42	O	Uくんは読んだ方がいいな。
43	S	じゃあこの二冊のあらすじをざざっと・・・
44	ゲスト	えーと、『告白予行練習』は、ナツキっていう女の子と、
45		】わははは
46	ゲスト	Uっていう男の子を主人公として話が進んでて、この二人は幼なじみなんですよ、ナツキはユウに告白しようとある日決心するんですけど、
47	S	うーん
48	ゲスト	やっぱり告白したら、沈黙が続いちゃって、そこで、これはウソだよ、告白の予想練習、本命は他にいるんだよって
49	O	かわいいなあ
50	ゲスト	二人の関係がぎくしゃくみたいな。
51	O	】うふふふ
52	ゲスト	で最後には告白しようってまた決心する、お話です。
53	OSFU	(拍手)
54	O	これはかわいい。
55	ゲスト	『やきもちの答え』は、これはちょっと表紙忘れちゃったんですけど、『やきもちの答え』は、えっと・・・誰だっけ、・・・えっと、ショウタくんと、ショウタくんと・・・えーっと・・・
56	F	アカリちゃん
57	ゲスト	】あ、アカリちゃん！ そう。アカリちゃん。で、アカリちゃんは恋を知らない天然な女の子。で、ショウタくんはアカリ一直線。もうまっすぐな男の子で、
58	OSFU	うふふふ。うれしそー ふふふふふ。
59	ゲスト	おーやばい！
60	O	ふふふふふ。
61	S	いいよ、語りたいだけどうぞ！
62	O	】どうぞ！
63	ゲスト	で、・・・そう。なんか・・・ショウタ君はアカリちゃんが恋を知らないってことを知らない
64	O	あー、
65	ゲスト	だから、他に好きな人が。アカリちゃんには他に好きな人がいると思ってるのね
66	OSFU	うーん。
67	ゲスト	で、そこで嫉妬とか、そういうのを交えた、お話です。
68	OSFU	(拍手)
69	O	楽しそう！
70	ゲスト	わははは、是非読んでください！ 本当に！

### 考察7 トークを「振る」言葉 ~「いいよ、語りたいだけどうぞ！」~

最初に取り上げるのは、次の三つの質問者の言葉である。これらの言葉をきっかけに、ゲストの「Honey Works」に対しての熱い思いが引き出され、語りが促されていくこととなる。

26	S	中学校に入って、HoneyWorks（略称は「ハニワ」）はまっちゃった・・・
43	S	じゃあこの二冊のあらすじをざざっと・・・
60	S	いいよ、語りたいだけどうぞ！

このように、話を引き出す言葉は、必ずしも「質問」の形であるとは限らない。むしろ「話を振る」という感覚に近いものであろう。ゲストに話したい思いが十分にあると聞き手が察することができた場合には、質問という方法を手放し、ゲストに流れを任せていく。そのために、このような「振り」の言葉によって促すこと、後押しすることが効果的であることがこの事例から学ぶことができる。

### 考察8 共感する言葉 ~「HONEY WORKS（ハニワ）いいよねー。」

以下のこのやりとりは、ゲストの「Honey Works」への熱い思いを語っているのを聞いて、聞き手がしみじみとつぶやいている場面である。

35	S	HoneyWorks（ハニワ）いいよねー。
36	F	】いいよねー
37	O	】うーん、あれはすごい。
38	ゲスト	】めっちゃはまりました。・・・

このような、話し手の熱い思いを受け止めた聞き手が、それに対して共感する言葉を発することで、話し手の思いがさらに促進されていく様子が見て取れた。（おそらく聞き手も同じくらい「Honey Works」が大好きなのだろう）

話し手だけが熱いだけでなく、それにつられて聞き手も熱くなってくる、その相乗効果でさらに熱い思いが引き出されていく。そのようなやりとりを成立させるのが、このような共感する言葉である。指摘した箇所にかぎらず、会話の合間にさまざまにこのような共感する言葉が確認できる。

### 考察9 「会話の輪」と「蚊帳の外」 ~「Uくんは読んだほうがいいな。」~

考察8で取り上げた会話に続くこの会話のやりとりがやや気になったので取り上げる。それは以下のU君に向けられた言葉である。

39	O	ふふふ。分からぬ人・・・（Uを見る）
40	ゲスト	恋愛ですよ。
41	S	】恋愛だよ。
42	O	Uくんは読んだ方がいいな。

このトークショーでは、ゲストのTさんは、自分の大好きな恋愛小説の話を目一杯語ることが出来た。それを引き出したのは、同じように恋愛小説が大好きな女子の聞き手たちである。この事実は、自分の関心を理解する聞き手がいることで、ますますその関心が引き出されていくという事実を端的に示している。

しかしその一方、盛り上がっている「女子トーク」に男子のU君は取り残され「蚊帳の外」の状態になってしまっている。この恋愛小説に関してはU君は一度も会話に加わることはできなかつた。

一对一の会話と異なり、三者以上の会話では、誰と、どのような話題を共有しているかという「会話の輪」が自然と生まれてくる。親密になればなるほど、専門的になればなるほど、「会話の輪」は参加者に強く意識させるものとなる。ひとたびその「会話の輪」に加わることができれば、この上なく楽しいものとなるが、輪から外れるとコミュニケーションを取ることは難しくなる。U君にとって、「会話の輪」に加わるためにはどのような関わりや質問が可能だったのだろうか、また、Tさんや他の聞き手は、U君をも加えた「会話の輪」にしていくためにはどのような質問や話題を投げかけていけばよかったのだろうか。

「話す・聞く」の学習では、通常、一对一で話したり、聞いたりすることが想定されている。しかし実生活では、一对一以外にも、三人以上の複数の参加者がいることが多い。その場合「会話の輪」が参加者に意識されていくことになる。会話をしながら、どのような「輪」が形成されているか理解することが必要とな

る。つまり、聞き手は話し手だけでなく、それを聞く第三の聞き手をも想定した質問をしなければいけない、質問にこたえる話し手は、質問者以外の聞き手も想定した話をしなければいけないので。そのような第三者以上の会話においては、誰もが共有できるような話題の選択や、第三者が「会話の輪」に参加していくための切り込みかたなどを考慮することも必要となるだろう。

### 考察10 肯定的なフィードバック～「ふふ、うれしそう」～

次の断片も、他のグループにはあまり見られなかった、聞き手の特徴的な反応について取り上げる。

58	OSFU	うふふふ。うれしそー ふふふふふ。
69	O	楽しそう！

この断片からわかるように、ゲストの「語っている姿」を見ている聞き手が、時折「うれしそうだね」「楽しそうだね」とフィードバックをしたり、拍手をしたりしている姿が見られる。

聞き手がどのような表情で語っているかという情報は、このトークショーの本筋からはとりあえずは関係ない。しかし「うれしそうに語っているね」「楽しんでいるね」というコメント、拍手は、聞き手が、話し手の存在を肯定的、好意的に受け止めているということを示す効果がある。

話し手は、語っている自分自身の姿や、聞き手にどのような印象を与えていたかについては知ることができない。しかし、「語っている自分の姿」についての聞き手から肯定的、好意的にフィードバックを与えられることで、話し手は自信を持って自己を開示し、表現しようとする気持ちになる。そのような聞き手のフィードバックの積み重ねが、話し手の、のびのびとした語りを引き出していったのではないだろうか。

## 4 実践から見えてきたこと

### (1) 「トークショー」の授業実践から見えてきたこと

「トークショー」という場の設定は、質問者が責任をもって場の流れを作り、ゲストのトークを引き出す質問や関わりを学ぶために効果があった。また、話し手（ゲスト）にとって、この活動は「話したい、伝えたい」という思いを、質問者の質問によって引き出してもらえるという情意的な満足感を感じることの出来た言語活動だった。一方、質問者としてのこの活動は、「トークショー」という場の責任感やメタ認知を高め、引き出す質問の様々な方略に気づくことの出来る言語活動となった。

引き出す質問の方略として「つかむ方略」「焦点化・深化する方略」「エピソードを引き出す方略」「流れを作る方略」が意識されていたことがわかった。また、トークショーの会話分析から、上記の「つかむ方略」や「焦点化する方略」「エピソードを引き出す方略」などの引き出す質問の方略が確認できた。しかし「質問」以外にも、「話を振る」投げかけや、拍手や笑い、共感的なフィードバックなど、言語、非言語を含めた、さまざまなやりとりが複合的に作用しあっていることが分かった。

「流れを作る方略」については会話分析の中からは具体的に指摘することはできなかった。これは「トークショー」の時間設定が7分と短すぎ、流れを考えてトークを作る学習が難しかったという点と、二問ずつ質問者を交代するという制約上からできなかつた可能性が考えられる。たとえば一人の聞き手がじっくりゲストの語りを引き出す活動や、長い時間をかけてじっくりとトークの流れを作っていく学習、あるいは、ゲストと質問者がお互いに流れを打ち合わせをしてトークショーに臨むなどの方法も考えられるだろう。

悪い質問の例として「矢継ぎ早の質問」「水を差す質問」などの、ゲストの語りたい文脈のポイントを外した細かすぎる質問が挙げられる。これらの質問によってゲストの語りが十分に広がらなかつたり深まらなかつたりした様子が見られた。反面、一見こたえにくいやうな曖昧な質問であっても、話し手に十分に語りたい思いがある場合は、話し手が自分の文脈にひきつけて語りだすことのできる可能性が示唆された。そのためには、細かすぎる質問よりは、ある程度のゆるやかな幅を持った「ゆだねる質問」をしてトークの主導権を話し手に任せていく方策が、引き出すためには効果的であるということがわかった。

質問の力は、ゲストである話し手の無意識の記憶や語りたくないことがらも引き出してしまう可能性がある。質問者は、ゲストが何が語りたいか見極めると同時に、語りたくないことに気づく洞察力も必要とされることが「トークショー」の実践から示唆された。

## (2) 「引き出す質問」の授業のリ・デザインに向けて

「トークショー」という言語活動そのものの分析と教材化の問題を今後も進めていく必要がある。今回の学習では、単元の導入で授業者とゲストティーチャーの演示によって「トークショー」と「引き出す質問」のイメージを持たせるにとどまっている。実際にテレビ番組の「トークショー」を分析させたり、学習者が取り組んだ「トークショー」を「引き出す質問」という観点で分析させたりする学習活動も考えられる。そのようにして「トークショー」そのものや、「引き出す質問」自体に焦点を当て、会話のやりとりを分析させるという学習も可能であろう。

また、「トークショー」以外にも、カウンセリングにおけるカウンセラーとクライアントとの会話、コーチングのスキルを用いたコーチの投げかけなど「引き出す質問」が活用されている現場でのさまざまな知見を学習に活用することを今後も検討する必要があるだろう。カウンセリングの、傾聴、質問の技法（マイクロカウンセリング<sup>3</sup>など）などは、国語教育の文脈にも取り入れる有効性があるものと考えられる。

質問や対話を学ぶ学習においては学習者の自由度が高い活動となる。そのため、どのように指導者が枠や制約を設け、なおかつ学習者が柔軟な対応ができるように自由度を確保するかという課題がある。今回は、一問目の質問内容をあらかじめ考えさせ、発話順を決めるという制約を設けた。それによって「会話の順番取り」の混乱を避ける配慮をした。しかし、このことで、柔軟な対話のやりとりを阻害したデメリットも生まれた。このように、対話の学習では、制約と自由度とをうまく両立させる方策を考える必要がある。

今回の実践では気心の知れた同じクラスメイトとの交流であったために、共通する接点が多く、うまく質問のやりとりが成功したという点が考えられる。反対に、話し手と聞き手との距離が遠いパターン、話し手を「つかむ」ことが難しい相手とのコミュニケーションにおいて、どのような「会話の輪」を作り、「引き出す質問」をして対話的な関係を築いていくことができるか、この実践からは明らかにできなかつた。「トークショー」という活動の形態を、クラスメート以外の未知の相手を対象として実施した場合、どのような「きくこと」や「質問」の違いが生まれるか検討することも必要であろう。そのような観点で、もともとある親和的な関係性を強化するためでなく、一から関係性を築いていくための「きくこと」「質問」の検討を今後進めていくことが求められる。

## 6 参考文献

- 岩瀬 直樹・ちょん せいこ (2011) 『よくわかる学級ファシリテーション①—かかわりスキル編一』  
小田豊二(2003) 『「書く」ための「聞く」技術』サンマーク出版  
斎藤孝 (2006) 『質問力』筑摩書房  
花田修一 (編著) (2013) 『国語学習における「対話」学習の開発』三省堂  
堀裕嗣・研究集団ことのは (2002) 『インタビュースキルを鍛える授業づくり』明治図書  
村松賢一 (2001) 『対話能力を育む話すこと・きくことの学習—理論と実践—』明治図書  
「日本マイクロカウンセリング学会」 (<http://www.microcounseling.com/index.html>) 2015/08/02閲覧

<sup>3</sup> 「マイクロカウンセリング」とはカウンセリングの基本モデルのこと。カウンセリング心理学者アイビイによって創始された。「開かれた質問」「閉ざされた質問」や「マイクロカウンセリングの階層表」（次ページに引用）などの知見は「きくこと」の教育にも活かすことのできる知見であろう。

# 事例1 Nさんの「わたしの素」トークショー

(ゲスト：Nさん、司会：D、他質問者：A、S)

1	司会D	今日のゲストはNさんです	考察1 トークショーの効果	エルマー のぼう けん	
2		いえーい（拍手）			
3	司会D	はいではどうぞ。			
4	S	はい。えーと、幼稚園の年長の時に読んだ「エルマーのぼうけん」っていうのは、どのくらいの長さのお話なんですか？			
5	ゲスト	なんかこんぐらいの・・・（指で本の厚さを示す）	考察2 矢継ぎ早の質問		
6	S	文字サイズはどれくらいですか？			
7	ゲスト	え、文字サイズはなんかけっこう小さめです・・・			
8	S	絵はどれくらいありますか？			
9	A	】聞きすぎだろ！			
10	ゲスト	絵はどんぐらいか・・・え、でも結構ちょくちょく入っているなあと			
11	S	あ、そうですか。			
12	ゲスト	うふふ、何それ！			
13	S	え、もう一個（質問）いい？			
14	ゲスト	っていうか二個でしょ質問？			
15	S	今のも一個（の質問）？			
16	A	今まで四個ぐらい質問したからね、おまえ、	考察3 水を差す質問		
17	S	あのーエルマーはなんで冒険に行ったんですか？			
18	ゲスト	えーと、あのー、島に捕らわれている竜がいるんですけど、他の動物たちに。その話を仲良くなった野良猫から聞いて、で、助けに行く・・・感じです。			
19	S	どうやって野良猫と仲良く			
20	A	おまえは・・・何回質問するんだ！（笑）			
21	ゲスト	えー、どうやって・・・ちょっと覚えていない・・・			
22	A	あ、（不明）的な感じですね			
23	D	はい、では新世界とはどんな世界ですか？			
24	ゲスト	えっと、新世界っていうか、新世界よりっていう、なんだっけ、誰かさんが作曲した曲			
25		あー			
26	ゲスト	誰でしょう、・・・分かるでしょ、それから題名をとってあって、で、まあ、あの世界がまあ、この今私たちがいる世界観とは違って、超能力が使える日本の話を描いた話・・・			
27	D	日本人が主人公なんですか？			
28	ゲスト	うん、そうです。			
29		ほー。			
30	I	「新世界より」に出会ったきっかけってなんですか？			
31	ゲスト	友達に紹介してもらってこれ面白いから読んでみなよって読んでたらどうはまりしました。			
32	I	（3秒の間）「社会の謎に迫る」って謎って何ですか？			
33	ゲスト	なんか、なんて言うんだろう、			
34	S	宇宙人がいるとか			
35	ゲスト	えーと、最初っからこの世界では超能力が使えていたわけではなくて、途中から超能力が使える人と使えない人が出てきたんですよ。そこからえーと、主人公たちが澄んでいる超能力を使える人間だけが住んでいる世界になる過程とか、あと、主人公たちが住んでいる世界も、なんか奴隸みたいな感じで、なんかネズミのもうちょっとヒト型っぽいやつが出るんですけど			
36	S	きもちわるい			
37	ゲスト	で、その人たちと戦争するんですよ、話の中で、			

38		で、なんか、なんて言うんだろう、そのネズミたちが生まれたきっかけとか、ま、そういう感じです。	エルマーのぼうけん
39	A	(4秒の間) 「エルマーのぼうけん」の、好きなところを教えてください?	
40	ゲスト	えー、なんで好きなんだろう?? (2秒) えー。	
41		絵が好きで、なんか独特なんですよ絵が。すごいかわいい感じじゃなくて。	
42	A	】タッチが?	
43	ゲスト	タッチが。	
44		外国の話なんで、ちょっとかわっているなあみたいな。	
45	A	え、どこの国のお話ですか?	西の魔女が死んだ
46	ゲスト	どこの国?知らない・・・	
47	A	知らないんですか、知らないんですか!	
48	ゲスト	はい。はははは。	
49	S	「西の魔女が死んだ」全然現れないね	
50	S	「西の魔女が死んだ」誰も触れない・・・	
51	ゲスト	かわいそう、ふふふふ。	
52	A	じゃあ、質問。西の魔女は死んだんですか?	エルマーのぼうけん
53	ゲスト	死にました・・・ふふふふ	
54	A	東の魔女はいるんですか?	
55	ゲスト	いや、あの西の魔女って言うのは、主人公のおばあちゃんのことを指していて、おばあちゃんが魔女って自分で言っているんですけど、	
56	S	自分で言っているの? 「わたし魔女だよ」って	
57	ゲスト	で、その主人公が体調悪くして、空気がきれいなおばあちゃん家にちょっと何ヶ月間か泊まって、魔女修行をする話なんですけど、魔女修行って言っても、なんか精神を鍛える修行みたいなことをする話です。	
58	A	じゃあ主人公は、魔女になるんですか?	
59	ゲスト	魔女って言うかーなんか魔女ってこの世界で・・・	
60	A	強い女になるんですか?	エルマーのぼうけん
61	ゲスト	まあそんな感じです。ふふふふ	
62	A	(5秒の間) 他に・・・	
63	S	何で西の魔女って言うんですか? どこから見て西なんですか?	
64	ゲスト	えーーー、知らない! 知らない! 多分主人公たちが住んでいる家からとか・・・	
65	D	「エルマーの冒険」の・・・	
66	A	またエルマーか、	
67	D	最終的な目標というか、なにかオチっていうのは・・・	エルマーのぼうけん
68	ゲスト	オチかあ・・・	
69	D	エルマーはどうするんですか?	
70	ゲスト	え、竜を助ける・・・	
71	A	あ、そう。	
72	S	竜と暮らすんですか、そのあと	
73	A	】ネタバレったね、今。	
74	ゲスト	ネタバレ言いまくっている・・・え、何?	
75	S	竜とその後暮らすんですか?	
76	ゲスト	いや、それも・・・	
77	S	じゃあその後は竜を見捨てるということで・・・	
78		ふふふふ	
79	ゲスト	竜は竜の世界に帰って行く。竜は竜で楽しく暮らす・・・	
80	S	そうですか、ほお。	
81		(5秒の間)	
82	A	はい。「新世界より」っていうのは、Nさんは聴いたことはありますか?	
83	ゲスト	えー確か、えーと「遠き山に日は落ちて」だけ、なんかその歌のもと? 歌詞がつく前が「新世界より」だった気がする。	

84	S	ほお。	新世界 より
85	S	♪トゥートゥトゥー、トゥートゥトゥー（「遠き山に日は落ちて」のハミングをする）	
86	S	はい。	
87	ゲスト	はい。	
88	D	後なんか聞こうか。	
89	S	じゃあ、「新世界より」に点を付けると何点ですか？	
90	ゲスト	えー、あははは、え！ 100点です。	
91	S	何ですか？	
92	ゲスト	え、面白いからです。	
93	S	面白いと100点なんですか？	
94	ゲスト	はい。	エルマー のぼう けん
95	S	じゃあエルマーの冒険は何点？	
96	ゲスト	95点。	
97	D	のこりの5点は何ですか？	
98	ゲスト	その最初のほうが説明がすごい長いんですよ、その世界の説明みたいのが。くどい、と。 そう。ちょっとそこ読むのが大変でした。	
100	S	そうですか。	
101	A	「新世界より」をひとことで言うと、何ですか？	
102	ゲスト	えー、	
103	S	ネズミの・（不明）・・・	
104	ゲスト	えー、何だろう。難しい。	
105	S	難しいと言うことで、	西の魔 女が死 んだ
106	A	エルマーは、一人で冒険するんですか？	
107	ゲスト	一人です。	
108	S	孤独ですね。	
109		ふふふふ。	
110	S	「西の魔女」をどう考えますか？	
111	ゲスト	わかんない・・・適当すぎるんだけど。質問が。（笑） どう考えますか？	
112	A	自分の解釈的に	
113	ゲスト	え、多分おばあちゃんは、なんか、死んじゃうんですけど、死んじゃう前に主人公とあの、死んだら何か教えてあげるよみたいな約束をして、で、実際教えてくれるんですよ、なんか	
114	A	死んだおばあちゃんが？	
115	ゲスト	はい、あの、魔女の（不明）に字が書いてあって、主人公がおばあちゃん死んじゃったよ、うえーんってっていうときに、文字が書いてあって、ふと見ると、で「おばあちゃんの魂脱出大成功」って書いてあるんですよ。	
116	A	どっきりじゃん。	
117	S	え、魔女そんなことできるの？ （以下略）	
118	A	魔女だもん。	
119	D	おばあちゃん本当に魔女なんですか？	
120	ゲスト	かなあみたいな感じです。（以下略）	

考察4  
ゆだねる質問

### 事例3 Tさんの「わたしの素」トークショー (ゲスト:Tさん、司会:O、他質問者:S、F、U)

1	O	本日のゲストは、Tさん、通称、○○(ニックネーム)さんです。	
2	OTFU	いえーい！	
3	ゲスト	おねがいしまーす。	
4	O	ではまず、こっちから行きましょう。Uくん。	
5	U	はい。『きみの友達』との出会いは？	
6	ゲスト	あ、はい。えっと、小学校六年生のときに、重松清の『カレーライス』っていう話が	
7	O	あー、あったねー	
8	ゲスト	「僕は悪くない」っていうのから始まるやつで	
9	OSFU	わははは	
10	ゲスト	それがすごい面白くて、重松清をかたっぱしから読んでいって、これが一番気に入って。・・・この話は、なんだろ、えーと、主人公が恵美ちゃんって言うんですけど、恵美ちゃんは事故をきっかけに性格が変わっちゃって、今まですっごい人気者	
11	O	あるある。	
12	S	あるあるだわ。	
13	ゲスト	恵美ちゃんと、恵美ちゃんの、きみの友達、恵美ちゃんを二人称として「きみ」の友	
14	OSFU		
15	ゲスト	というふうに、恵美ちゃんと、恵美ちゃんの友達の物語を書いた	
16	O	】あ、そういうことか	
17	ゲスト	短編集、みたいな感じになっています。	
18	S	重松・・・・先生	
19	ゲスト	そう、そうそうそうそう。	
20	O	あははは。	
21	O	ためたなあ。	
22	S	いま(言葉が)出なかった。	
23	O	うーん、	
24	ゲスト	です。	
25	O	すごい。・・・じゃあどうぞ。	
26	S	中学校に入って、HoneyWorks(ハニワ)はまっちゃった・・・	
27	ゲスト	はい。はまりました。見事に。	
28	S	歌も？	
29	ゲスト	歌、歌からはまりました！	
30	S	】歌から！	
31	O	】歌から！	
32	ゲスト	なんか、ダンス部でおすすめの曲みたいのを結構言い合ったりしているんですけど、そこでYさんがHoneyWorksいいよって言ってて、聞いたらやばいってなって、	
33	O	Y！	
34	ゲスト	それで本屋さんで見つけて、もう、衝動買いで買っちゃいました。	
35	S	HoneyWorks(ハニワ)いいよねー。	
36	F	】いいよねー	
37	O	】うーん、あれはすごい。	
38	ゲスト	】めっちゃはまりました。・・・	
39	O	ふふふ。分からない人・・・(Uを見る)	
40	ゲスト	恋愛ですよ。	
41	S	】恋愛だよ。	
42	O	Uくんは読んだ方がいいな。	

考察7  
トークを「振る」言葉

考察8  
共感する言葉

考察9  
「会話の輪」と  
「蚊帳の外」

きみの  
友達

43	S	じゃあこの二冊のあらすじをざざっと・・・
44	ゲスト	えーと、『告白予行練習』は、ナツキっていう女の子と、 】わははは
45		
46	ゲスト	Uっていう男の子を主人公として進んでて、この譜たちは幼なじみなんですよ、ナツキはユウに告白しようとある日決心するんですけど、
47	S	】うーん
48	ゲスト	やっぱり告白したら、沈黙が続いちゃって、そこで、これはウソだよ、告白の予想練習、本命は他にいるんだよって
49	O	かわいいなあ
50	ゲスト	】二人の関係がぎくしゃくみたいな。
51	O	】うふふふ
52	ゲスト	で最後には告白しようってまた決心する、お話です。
53	OSFU	(拍手)
54	O	これはかわいい。
55	ゲスト	『やきもちの答え』は、これはちょっと表紙忘れちゃったんですけど、『やきもちの答え』は、えっと・・・誰だっけ、・・・えっと、ショウタくんと、ショウタくんと・・・えーっと・・・
56	F	】アカリちゃん
57	ゲスト	】あ、アカリちゃん！ そう。アカリちゃん。で、アカリちゃんは恋を知らない天然な女の子。で、ショウタくんはアカリ一直線。もうまっすぐな男の子で、
58	OSFU	うふふふ。うれしそー ふふふふふ。
59	ゲスト	おーやばい！
60	O	ふふふふふ。
61	S	いいよ、語りたいだけどうぞ！
62	O	】どうぞ！
63	ゲスト	で、・・・そう。なんか・・・ショウタ君はアカリちゃんが恋を知らないってことを知らない
64	O	あー、
65	ゲスト	だから、他に好きな人が。アカリちゃんには他に好きな人がいると思ってるのね
66	OSFU	うーん。
67	ゲスト	で、そこで嫉妬とか、そういうのを交えた、お話です。
68	OSFU	(拍手)
69	O	楽しそう！
70	ゲスト	わははは、是非読んでください！ 本当に！
71	F	はい。
72	F	・・・えっと、HoneyWorks続きなんんですけど、HoneyWorksのなかで一番好きな曲とか思い入れのもった曲とかはありますか？
73	ゲスト	それはもちろん「やきもちの答え」ですよ！ めっちゃ共感しますよ！
74	ゲスト	わははは
75	O	共感
76	ゲスト	わははは
77	O	あれはいいねえ。
78	F	アナザー（べつのバージョン）と
79	O	】そうそう、アナザー
80	F	普通のと、どっちがいいですか？
81	ゲスト	どっちがいいかなあ。あの男の子目線の方、
82	O	あー
83	ゲスト	普通の方かな。
84	F	あの、告白しに行きますっていうやつ？

Honey  
Works  
の本

「告白  
予行練  
習」

考察10  
肯定的な  
フィードバック

「やき  
もちの  
答え」

85	ゲスト	そう。
86	O	あれが普通のほうか、あれも泣けるよね。
87	ゲスト	その、あそこが好き、えっと
88	O	何？
89	ゲスト	君の好きな人に好きな子がいたらなんて願う悪魔 「いけないことですか？」 「だよね」 「わかってますよ」 独り言です（歌詞の一節） あそこがめっちゃ好き！
90	F	あそこからのサビ
91	ゲスト	そう、そう。
92	S	いいねえー。
93	O	はい、行きますよ。つぎ。「ぐるんぱ」
94	ゲスト	はい、「ぐるんぱ」来てください。
95	O	「ぐるんぱ」ってどういう意味ですか？
96	ゲスト	ぐるんぱはこの象の名前です。
97	O	名前なの！ わはははは！ まじ、ぐるんぱ、はははは。
98	S	】それ持ってるかも
99	O	どういう話なんですか？
100	ゲスト	ぐるんぱは、めっちゃ臭くてめっちゃ汚い象だったんですよ。
101	O	はははは、ひどいなあ。
102	ゲスト	書いてあるんだもん！
103	O	はははは
104	ゲスト	で、まわりの象がきれいにして働きに出したんですよ
105	O	あー。
106	ゲスト	で、そこで、ビスケット作ったり、靴作ったり、いろいろするんですけど、全部大きすぎて誰も買ってくれない
107	O	あははは！
108	ゲスト	ビスケットだったら、こんなでっかいの作って、一個一円。高いし、大きいし。最後にはそれを有効活用して
109	O	あ、これ読んだことあるかも
110	ゲスト	幼稚園を作ったっていうお話です。
111	O	あー
112	ゲスト	で、最初ひとりぼっちだったんですけど、こうやって幼稚園の子が来てくれたことで、仲間が増えた。ハッピーエンド
113	OSFT	(拍手)
114	O	ハートフル！

ぐるんぱ

## 事例2 Yさんの「わたしの素」トークショー (ゲスト:Yさん、司会:N、他質問者:A、T、I)

1	N	じゃどうぞこちらです	
3	ゲスト	こちらですか、なんかみんな怖い、どうしよう・・・	
4	N	あのー、どうもこのたびは、わざわざお越しいただきまして、誠にありがとうございます	
5	TIA	ありがとうございます	
6	N	よろしくお願ひします	
7	N	えとー、早速インタビューをさせていただきます	
8	ゲスト	ふふふふふ	
9	N	この3つの本の中で、1番思い出のある本はなんですか？	
10	ゲスト	思い出のある本ですか、「ようこそ我が家へ」ですかね	
11	N	何ですか？	
12	I	何ですか？	
13	ゲスト	えっと、何か、ドラマ、ドラマやってたじゃないですか、で、私なんかこのドラマのおかげで、なんて言うんだろう「社会の怖さ」とかそういうのを知りはじめて、で、私ついこの間ストーカーに会ったんですけど	
14	TIA	えーー！	
15	ゲスト	本当に、ストーカーに会ったときに、何かこの本で何か行っていた対処法とか、ちょっとやってみたら結構よかったんですよ	
16	I	具体的にどんな対処法を・・・	
17	ゲスト	え、具体的に・・・具体・・・ちょっと、まあ、思い出したくない過去なんですけど	
18	I	わかりました。すいませんごめんなさい。	考察5 エピソードに光を当てる質問
19	N	結構ひどいストーカーですか？	
20	ゲスト	考察1	
21	TIA	矢継ぎ早の質問	
22	ゲスト	(前半略) それで、あーこの本のおかげでちょっと助かったなあみたいな感じのことを、つい一週間前に思い出しました。	
23	N	おー、すばらしい！（拍手）さすが、すばらしい！ 尊敬します。	
24	N	えとー「ようこそ我が家へ」っていうのはドラマでもやっていると思うんですけど、ドラマと原作って何か違いがありますか？	
25	ゲスト	ああ、だいぶ違くて、まず主人公、主人公が原作のほうではお父さんが原作では主人公になっていて、で、ドラマのほうでは息子さん？ 息子のけんた君が主人公としてやってたんですよ。で、なんか、結構ちょっと話が何か変わっているところがなんかあったりして・・・名前が出てこないこの人誰だっけ・・・そうだ、沢尻エリカさん。沢尻エリカさんがいると思うんですけど、この人はあの原作には出てこなくて、うん、この人の手助けなしで頑張っていくストーリーなんですよこれは	ようこそ我が家へ
26	TIA	おー、	
27	ゲスト	そう、そうそう。それでちょっとドラマと違うなあと思ってショックだったんですけど、まあそういうところで、違いますね。はい。	
28	A	なるほど、えと、だいぶ話が変わっちゃって申し訳ないんですけど、	

29	T	いま「ようこそ我が家」にだから・・・(質問内容を確認する)	
30	N	こっち先で・・・	
31	T	えーと、立派な大人、あ、ここに書いてあるんですけど、立派な大人と大人の裏の顔の違いっていうのは、どういう・・・立派な大人っていうのはどういう人のことを言って、裏の、大人の裏の顔っていうのがどういうことをいうんですか？	
32	ゲスト	あー、えっと、なんか、この一これ、結末言っても大丈夫ですか？	考察6 差異から深める質問
33	T	はい。	
34	ゲスト	あの結末言っちゃうと、あの、すごいエリートな、エリートな雑誌編集者のかたが、その今までストーカーを行ってきたんですけど、その、すごいあの、エリート？ エリートなかたでもやっぱり嫉妬とかそういう感情からこういう風に、なんて言うの、狂っていらっしゃるみたいな感じで、なんか外見は立派に見えるけど、本当の裏の顔は、なんて言うの、ちょっといじると、うーんみたいな感じ	
35	I	わー怖い	
36	ゲスト	】になっちゃう人ってことで、で、まあ、ここに書きました。	
37	T	はい。ありがとうございます。	
38	A	私もその「ようこそ我が家へ」を見ようと思っています。なんか電車のあれで、あの広告があって、すごい面白そうだなあと思っていたんですけどなかなか私は読めなくて・・・あの面白そうだなあと思いました。	
39	A	で、えーと、めっちゃ話がかわるんですけど、「リトルマーメード」と	
40	ゲスト	】はい	
41	A	「リトルプリンセス」って、なんかもうリトルがついているし、どっちもディズニーだし、結構似ていると思うんですけど、なんかその自体、それ自体の違いとかはあったんですか？	
42	ゲスト	なんか、リトルプリンセスは別の位置？ ディズニージャなくてなんか、こっちのプリンセス？全然ディズニー関係なくて、プリンセス・・・プリンセスが、おとぎ話のプリンセスが、なんか、ちょっと悩み事があって、それを助けに行くみたいなそういう感じの話で、でなんかこっちは本当のあの原作のリトルマーメード、リトルマーメードの映画化されたものをそのまま絵本にした感じです。	
43	A	リトルマーメードを読んでいたときと、そのリトルプリンセスを読んでいたときと心境の違いますか？	
44	ゲスト	心境の違い？・・・え・・・何だろう。うーん、リトルマーメードのときは、なんか人魚がいると思って、なんかすごいなんかふわふわしていたっていうか、なんて言うの？ 何て言うの？説明すごいしづらいんですけど、なんか、私もこうなりたいなみたいなふうに思ってたんですけど、なんかちょっと年齢があがると、なんか、人魚はいないから、なんて言うの？なんて言うの？ 説明するのがすごいしづらいんだけど、なんだろ、こういうお姫様になりたいなみたいな、ちょっと、ちょっとランクアップしましたね。はい。	リトル プリン セス
45	I	何か皆さんに質問されちゃって、出尽くしちゃった感じではあるんですけど、その、なんだろう、つまり、その、プリンセスとかにAさんあこがれていたみたいなそういう	
46	ゲスト	そうですね、そうです。あこがれていました！	
47	I	みんなね、女の子だったら小さいころみんなそうですよね。	
48	TAN	ふふふふ	
51	N	そうですよねえ	
54	T	】おんな、おんな？？(N君を見ながら)	
55	A	女の子だから…… (終了のタイマーの音が鳴る)	
57	A	あ、終わっちゃった。	
58	N	いいタイミング	
59	A	ありがとうございました	